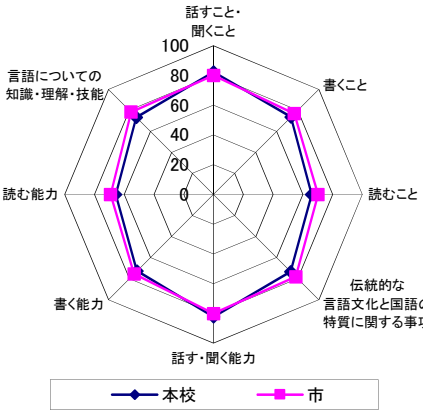


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.3	80.1	77.9
	書くこと	73.7	76.8	65.3
	読むこと	65.9	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	82.3	80.1	77.9
	書く能力	72.7	75.6	64.2
	読む能力	65.8	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	73.4	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

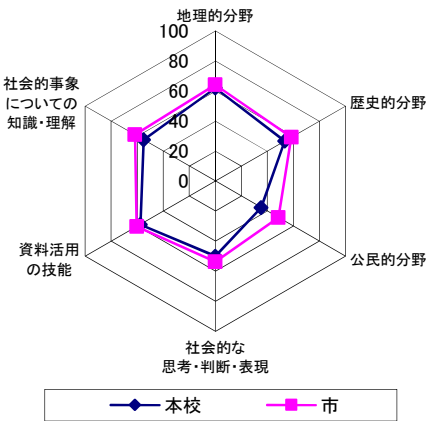
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均より2.2ポイント上回っている。 ○意見の述べ方の共通点を聞き取ることができる、司会者の工夫を聞き取ることができるが約5ポイント高い。 ○互いの発言を検討して自分の意見を述べることができるでは、1.6ポイント高い。 ●話の内容を正確に聞き取ることができるでは、1.2ポイント低い。	・引き続き授業の中に話し合い活動を盛り込んでいき、8人グループで4人話し合い、4人はそれを聞き、話し合いの仕方の分析をするなどの方策を取り入れ、話し方を工夫する力や相手の意見を聞いて自分の考えを伝えられる力を伸ばしていく。 ・話の内容を正確に聞き取れるようにするため、聞き取りテストなどにおいてメモを適切にとるトレーニングをしていく。
書くこと	●市のポイントより3.1ポイント下回っている。 ●資料を集めて発表原稿を書くという問題では、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができるが、市のポイントより、1.4ポイント下回っている。 ○同じく資料を集めて発表原稿を書くという問題で、相手に効果的に伝わるように書くことができる、説明や具体例を加えて書くことができる、自分の考えを根拠を明確にして書くことができるは、市のポイントを上回っている。 ●作文を書くことでは、指定された文字数で書く、3段落構成で文章を書く、自分の考えを明確に書く、自分の考えを明確に書くのどの項目も市のポイントを大きく下回っている。	・ワークや問題プリントの「書く」の問題の解答内容を論理的に解説していく。 ・教科書の「書くこと」の学習材において、各学年、書く指導のメインとなるものを検討し、それを重点的に指導して、材料を集めたり、資料を参考にしたり、自分の考えを明確に書く力をつけさせていく。
読むこと	●市の平均より4.4ポイント下回っている。 ●説明的文章の問題では、内容読解、内容のまとめ、要旨のとらえ、文章構成や展開をとらえる問題の正答率が市と比べ、2～3ポイント下回っている。 ●文学作品の内容読み取りの問題では、登場人物の心情をとらえ、文章の表現の特徴をとらえることができるかの問題の正答率が、10～5ポイント下回っている。	・学習材を読み取っていくうえで、読み取りの可視化ができるプリント作成の工夫をする。 ・読解力補充をねらい、来年度購入することとした問題プリントとこれまでも使用してきたワークを併用し、様々な角度からの問題に当たり、読み取りの力をつけさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●市の平均より、44.9ポイント下回っている。 ○漢字の読みの正答率は、ほぼ市の平均を上回っている。 ●書きの正答率は、全ての問題において市の平均を下回っている。 ●文法・語句に関する知識を問う問題の正答率は、全ての項目において市の平均を下回っており、特に、用言の活用問題、敬語についての問題の正答率が10ポイント以上下回っている。	・使用している漢字の学習には、全学年巻頭に小学校六年生で学習した漢字(読み・書き)が掲載されており、また、通常のページにも、日常でよく使われる漢字が載っているため、漢字学習を活用し、書字力を高めさせていきたい。 ・用言の活用を扱う授業では、活用の規則性を分かりやすく教える工夫をするともに、文法事項全般において、ワークや問題プリント、さらに補助プリントを作成するなどし、問題を多く解くことによって理解を深めさせていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.0	64.1	57.5
	歴史的分野	53.4	58.4	52.8
	公民的分野	35.2	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	49.9	53.6	47.5
	資料活用	57.6	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	55.1	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

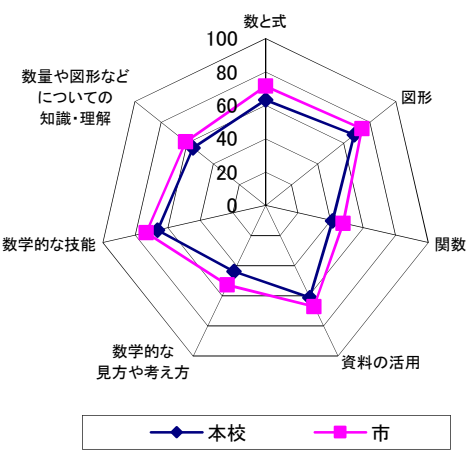
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●市の平均より2.1ポイント下回っている。 ○世界地図の読み取りや造山帯の位置、日本各地の気候の特色は市の正答率を上回っている。 ●主な国々の国名と位置の理解は市の平均を8.8ポイント下回っている。 ●日本の農産物の生産についての理解が市の平均を9ポイント下回っている。	・地理はデジタル教科書や地図の利用を多く取り入れ、興味を持って授業に取り組めるよう配慮した。地図の読み取りや造山帯の位置など簡単な場所の把握には効果的だったため、今後も引き続き行っていく。 ・主な国々の国名や位置など繰り返し学び、知識の定着に必要な学習は、不十分であった。小学校で学ぶこと、中学校で学ぶことを意識するとともに、小学校での学習の学び直しにも力を入れていく。
歴史的分野	●市の平均より5.0ポイント下回っている。 ●飛鳥時代、飛鳥時代から平安時代についての正答率が市の平均と比べ、それぞれ13.5ポイント、12.6ポイント下回っている。 ○世紀と西暦の表し方は市の平均より7.2ポイント上回っている。 ○江戸時代や開国による日本の社会への影響など市の平均と比べ、やや上回っている。	・1年生で学んだことが3年生の現在定着していないことが分かった。時代がさかのぼるごとに定着率が落ちている。実力テスト等の振り返りを重視していく。 ・「世紀と西暦」などは授業で繰り返し触れてきた。定着を良好なため、今後も継続して指導していく。 ・歴史の授業ではデジタル教科書の使用が不便で授業に取り入れることができなかった。視覚や聴覚に訴えられるような資料を自前で作ることが求められる。また地図を利用しながらの授業も今後とも継続していく。
公民的分野	●市の平均より13.3ポイント下回っている。 ○「社会を学ぶことが好きである」の肯定割合は73.3%と昨年より16.3ポイント上回り、市の肯定割合も上回った。関心意欲の高まり顕著にみられた。 ●日本国憲法が最高法規であることや公共の福祉についての理解が市の平均を大きく下回っている。	・3年生の学習「近現代の歴史学習や公民の学習」に対する関心意欲の高まりがみられた。模擬裁判や株式売買ゲームなど体験的な学習を数多く取り入れたことで社会科好きな生徒を育成できた。 ・関心意欲は高いものの、知識の定着には課題が残った。今後は単元テストの導入を検討していく。 ・記述式の問題に対して、無答の生徒が多い。思考力や表現力の学習のため、「体験的な学習」を行ってきたが課題が残った。関心意欲を高めることが、思考力・表現力の育成につながる学習を模索していく。
全体を通して	○社会科の校内正答率は54.5%。市の正答率59.5%には5ポイント届かなかったが、生徒は努力している。全国正答率53.1%を1.4ポイント上回ることができた。 ●全体的に二極化が進んでおり、学習意欲をなくしている生徒が多いのが特色であり、単語を答えようとするものの、難しい記述形式には答える意欲を失う傾向にある。	・素直で授業中の取組は真面目であるが、自ら学ぶ姿勢に課題があるため、家庭での学習習慣に大きな開きが存在する。 家庭学習ができない生徒のために、放課後を使ったワーク学習を取り入れているが、ワークを終わらすことが目的になっているため、授業前に前時の学習内容を確認する小テストの実施を検討している。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.3	71.5	66.8
	図形	68.0	73.8	70.4
	関数	41.3	47.8	41.6
	資料の活用	61.2	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	43.8	52.8	45.8
	数学的な技能	66.4	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	55.6	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

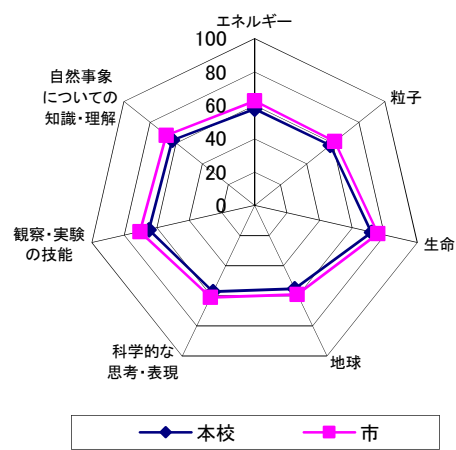
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○乗法公式を使って式を展開する問題では、8割以上の正答率である。 ●市の平均より8. 2ポイント下回っている。 ●2次方程式の解き方について理解の不十分な生徒が多い。 ●連立方程式の文章問題では、文章から式が作れない生徒が半数以上である。	・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分であるので、計算練習などを繰り返し行う。 ・基礎・基本を押さえつつ、応用問題に対応できる力を小テスト形式等を用いて行い、解答・解説を実施する。
図形	○図形を平行移動させた距離について理解する問題では、8割以上の正答率である。 ●市の平均より5. 8ポイント下回っている。 ●外角の和が360°であることを理解する問題の正答率が低い。 ●証明の必要性和意味について答える問題の正答率が低い。	・授業の中で、仮定から結論までの流れをしっかりと説明することで、証明の手順を理解させる。 ・合同な図形や相似な図形の探し方を練習し、証明の問題を解くことにより証明の楽しさを感じさせたい ・反復練習を行うことで定着を図っていききたい。
関数	○xの2乗に比例する関数の問題で、変域を求める問題では、全国の正答率を5ポイント上回っている。 ●市の平均より6. 5ポイント下回っている。関数についての理解度を確かめる問題の校内正答率24.7ポイントと低い。 ●xの2乗に比例する関数で、グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題では、正答率15.7ポイントととても低い。	・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数の共通する点と相違な点をまとめ、わかりやすく指導していききたい。 ・式・表・グラフからそれぞれの特徴を説明し、問題を多面的に捉えやすく指導していききたい。
資料の活用	○度数分布表で、中央値が含まれる階級を求める問題では全国の正答率を5. 9ポイント上回っている。 ○あたる確率をもとにあたらぬ確率を求める問題では、校内正答率が79.8ポイントと高い。 ●市の平均より5. 9ポイント低い。	・生活の中で確率の考え方が利用されていることが多数あることに気付かせたい。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正しく場合分けができるようにしたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.9	62.7	57.6
	粒子	57.9	61.5	57.7
	生命	71.8	75.8	72.1
	地球	55.3	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	57.2	61.0	54.8
	観察・実験の技能	64.9	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	62.9	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

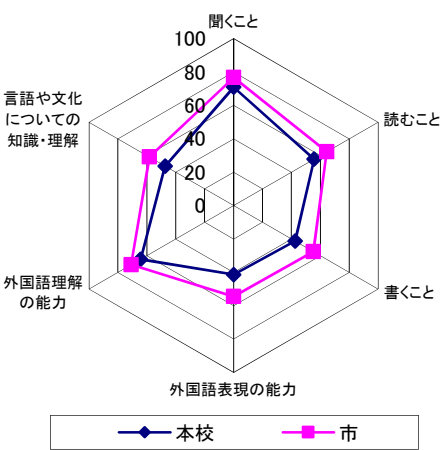
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●市の正答率より4.8ポイント下回っている。 ○音の波形の特徴については、よく理解できている。 ●電流の性質についての理解が不十分な生徒が多い。 ●簡単な計算問題は解けるものの、活用問題になるとあきらめてしまう生徒が多い。 ●問題文に書かれている情報を自分なりに整理することが苦手である。	・授業において、身近な生活と関連付けて学習させていく。 ・情報を自分なりに整理したり、他者の考えが正しいかどうかを検証させたりする機会を、授業の中で意図的に設定していく。
粒子	●市の正答率より3.6ポイント下回っている。 ○化学変化については、おおむね理解できている生徒が多い。 ●他者の考えが正しいかどうかを検証することができない生徒が多い。 ●少数の割り算に対して苦手意識を持っている生徒が多く、密度を計算で求めることができない。	・公式を学ぶだけでなく、計算問題を解く時間を十分に確保して、繰り返し解かせるようにする。 ・話し合い活動において、他者の考えの間違いを指摘したり、矛盾点がないか検証したりさせるようにする。
生命	●市の正答率より4.0ポイント下回っている。 ○動物の分類については、よく理解できている生徒が多い。 ●生物の増え方については、減数分裂や受精によって染色体数がどのように変化していくかが、正しく理解できていない生徒が多い。	・図やモデルを使いながら、生殖のしくみについて、しっかりと理解させたい。 ・問題演習等を十分に行い、多面的にとらえられるようにしたい。
地球	●市の正答率より3.7ポイント下回っている。 ○梅雨前線ができる仕組みについては、理解できている生徒が多い。 ●自分の考えを的確に文章で表現することができない生徒が多い。 ●地質時代を正しく理解できていない生徒がいる。	・授業のふりかえりの場面で自分の考えを書かせたり、丁寧に添削したりしながら、文章で表現する力を育てたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.0	76.8	73.1
	読むこと	55.7	64.5	59.9
	書くこと	42.5	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	41.3	54.5	59.0
	外国語理解の能力	64.3	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	47.4	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵の内容を適切に表している英文を答えたり、英文の要点を聞き取るという問題では、正答率が高くなっている。 ●対話の内容を聞き取って、資料をもとに判断して答える力はやや不足している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ALTとの授業では、生徒との対話をできるだけ増やし、生徒同士でも対話をする場面設定を工夫していきたい。また、生徒にはできるだけ自然な英語を聞く機会を与えるとともに、CD教材やDVDを使ったリスニング練習を増やして、今後もリスニングの定着を図るように努めていきたい。
読むこと	○対話の流れと与えられている図などから、登場人物の発言や行き先などを把握することはできていた。 ●語形や語法の理解についてはばらつきが見られた。また英文の要点を把握し、適切な返答をすることや、読み取った内容から日常生活におけるコミュニケーションのあり方などを考えるという力が不足している。	・英語の文章の段落ごとに、英文で何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を増やし、概要や要点をつかむような読み方の指導に力を入れていく。また、様々な内容の長文を読む機会を増やすことによって、長文に対する苦手意識をなくすようにしていきたい。文中の指示代名詞などが何をさしているのか、正確に答えられる力も身につけさせたい。
書くこと	○英文を正しい語順で書くことは、比較的できていた。 ●単語を正確に書くということが苦手であるため、与えられた情報に基づいて英文を正確に書くことが難しいようだ。 ●「一番好きな季節」について、まとまりのある5文で表現する問題では、自分の意見を英文で表現する力が不足している。	・日頃より単語練習に力を入れて、反復練習をすることにより正しいスペリングを覚えるようにさせる。また既習の文型を使つての英作文を実施して、基本文の定着を図るようにする。また、自分自身のことや与えられたテーマについて、自分の意見をしっかり持つとともに、自由に英語で表現する力を身につけさせたい。

宇都宮市立城山中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書いてまとめる活動を始めとする思考力・判断力・表現力の育成	授業の中で、ホワイトボード等を活用したり、ワークシートの記入の仕方などを工夫して自分の考えをまとめ、全体の前で説明したり発表する機会を設定する。	「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が66.0%、2年生が79.3%、3年生が77.8%となり、昨年度と比較するとどの学年も上昇している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉として、小学校からの継続的な取り組みとして行っている。自主的な家庭学習を習慣化させるようにする。	「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が63.2%、2年生が73.9%、3年生が58.9%となり、昨年度と比べて上昇しているか、ほぼ変わっていない。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・3年生の授業への取り組みについては、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。しかしそれぞれの教科での正答率は平均より下回っている。この結果から学習しようという意欲はあるものの、なかなか学習時間を上手に活用できていないということが分かる。グループなどでの話し合いでは、友だちの話をきちんと聞こうとする姿勢が見られ、学習活動の中に発表の機会を設定してきた成果が出てきたと考えられる。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」という項目は2年生が62.0%と昨年度よりも増えてはいるが、全体的にはまだまだ低い。次年度も地域学校園でも声をかけ合い、家庭学習の習慣化と自主的に学習に取り組む姿勢の指導を充実させていきたい。